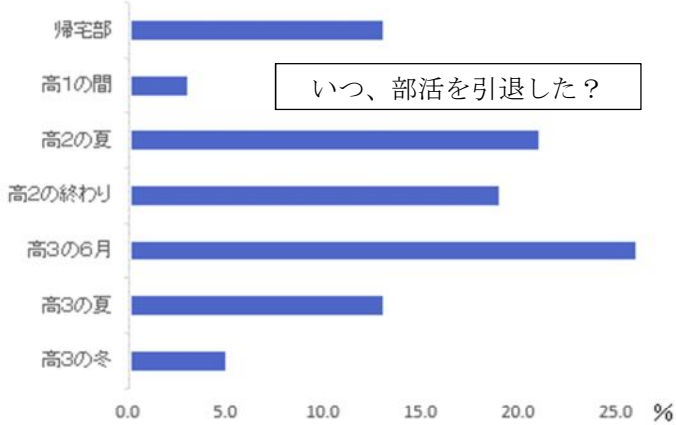


あまり、目くじらを立てないで読んでください (笑) 受験と部活と方法論

最近、ちよつと気になるデータを発見しました。
 ネットの「合格サプリ」というサイトのデータです(東大生・京大生100人アンケート)受験勉強と部活・恋愛の両立の秘訣。この中に「いつ、部活を引退したか」というアンケート項目があり、その結果をグラフ化したものがこれです。

「部活を途中で引退した合格者」が意外と多いな、と思いませんか(東大生・京大生ということでは、「合格者」ということ)。高3になる前に部活を引退した合格者が全体の43%もいます。高3まで部活をした合格者が全体の44%ですから、部活生のほぼ半数が途中で引退しているのです。

もちろん、このデータは、100人という限られた対象者数のデータです。「合格者」というのも現役合格者かどうかわかりません。そもそも、「部活」といっても、運動部かどうかともわかりません。引退した理由も、ケガが原因かもしれないし、素行不良で退部させられたのかもしれない。とはいえ、



この2つのデータを引用して、「部活を途中で辞めた方がよい」という野暮なことを言いたいわけではありませぬ。ただ、「部活を途中で引退した受験生が意外と多いこと」から、「なぜ、部活を途中で引退しようと思ったのか」という、その心情を妄想してみたかっ

このデータは、東進が2012年に実施した2000人対象のアンケートの一部です。このデータでは、「部活」を「運動部+運動部に準じた文化部」に限定しています。そして、対象者は「旧帝大受験生」です。先ほどの「合格サプリ」のデータより、対象者数も、「部活」の定義も明確ですが、東進が「東進のデータ」を引用するのは、ちよつと客観性に欠けるかな、と紙面に書くのを躊躇していたわけです。

	入っていない	高2まで引退	高3まで続けた
合格	13.7%	23.5%	26.2%
不合格	10.7%	7.0%	18.9%

部活と旧帝大の可否関係
 (※部活=運動部+運動部に準じた文化部(吹奏楽部・演劇部など))

① 目的を考える

たからです。もちろん、その方法論は、何度もこの紙面で紹介している方法論である、①目的を考える、②優先順位を考える、③計画を立てる、です。

そもそも、部活を途中で引退するのは、苦渋の決断です。それ相応の勇気が必要なのは、それでも、あえて部活を途中で引退したのには、理由があるはず。その理由とは、「志望校に合格したい」という熱い思いではないでしょうか。
 「志望校合格」という「目的」から逆算して、このままではヤバイかも、と思ったのではないのでしょうか。

② 優先順位を考える

そして、その危機感から、「部活を途中で引退する」という選択肢が浮かんでくるわけです。部活を続けようか、それとも、引退しようか、と。
 このとき、「優先順位」を考えたいのです。そして、何度もこの紙面で述べているように、「優先順位」とは、「全部やることを前提に、やる順序を決め

③ 時間をデザインする

これで時間は、確保できました。後は、この時間をいかに有効に活用するか、という計画の段階です。最近、私は、これを「時間をデザインする」という言葉で表現しています。なぜなら、計画とは、突き詰めれば「時間をどう使うか」に凝縮されるからです。
 そして、この「時間をどうデザインするか」について、お手伝い(アドバイス)するのが、東進のスタッフの仕事だと、私は考えています。妄想と駄文に最後まで付き合っていたいただき、心から感謝します。

目くじらを立てる...「目くじら」とは「目尻(めじり)」のことで、「目くじり」とも言う。この「目くじり」が変化したが「目くじら」で「鯨(クジラ)」とは関係ない。目くじらを立てることは、目を吊り上げ鋭く相手を見ることになり、怒った時などの表情を意味していたが、見るだけでなく、責めたりとがめたりする意味へ変化していった。(語源由来辞典より抜粋)

壺(つぼ)の話

ある大学でこんな授業があったという。
 「さあ、クイズの時間だ。」教授はそう言って、大きな壺を取り出し教壇に置いた。その壺に、彼は一つ一つ岩を詰めた。壺がいっぱいになるまで岩を詰めて、彼は学生に聞いた。「この壺は満杯か？」
 教室中の学生が「はい」と答えた。
 「本当に？」そう言いながら教授は、教壇の下からバケツいっぱい砂利を取り出した。そして、砂利(じり)を壺の中に流し込み、壺を振りながら、岩と岩の間を砂利で埋めていく。そしてもう一度聞いた。「この壺は満杯か？」
 学生は答えられない。一人の生徒が「多分違うだろう」と答えた。
 教授は「そうだ」と笑い、今度は教壇の陰から砂の入ったバケツを取り出した。それを岩と砂利の隙間に流し込んだ後、三度目の質問を投げかけた。
 「この壺はこれでいっぱいになったか？」
 学生は声を揃えて、「いや」と答えた。
 教授は水差しを取り出し、壺の縁までみなみと注いだ。彼は学生に最後の質問を投げかける。
 「僕が何を言いたいのかわかるだろうか」
 一人の学生が手を挙げた。「どんなにスケジュールが厳しい時でも、最大限の努力をすれば、いつでも予定を詰め込む事は可能だということです」
 「それは違う」と教授は言った。「重要なポイントはそこにはないんだよ」
 「この例が私達に示してくれる真実は、小さな砂とかは後からでも入るが、大きな岩は先に入れないかぎり、それが入る余地は、その後二度とないという事なんだ。君たちの人生にとって「大きな岩」とは何だろう。」と教授は話し始める。
 「それは、仕事であったり、愛する人であったり、家族であったり、自分の夢であったり...ここで言う「大きな岩」とは、君たちにとって一番大事なものだ。それを最初に壺の中に入れなさい。さもないと、君達はそれを永遠に失う事になる。もし君達が小さな砂利や砂や、つまり自分にとって重要性の低いものから自分の壺を満たしていけば、君達の人生は重要でない「何か」に満たされたものになるだろう。そして大きな岩、つまり自分にとって一番大事なものに割く時間を失い、その結果それ自体失うだろう。」

東進を丸ごと体験してください！

本気で志望校を目指すのなら、東進を体験してみる価値は、絶対にあります。

受験勉強を本格的にスタートしたい！この夏、苦手を克服したい！今までの自分と決別したい！

夢・未来に「本気」の高1・2生を、東進の講習会に無料招待します

7月12日(木)までのお申込みで、最大4講座(90分×20回)の夏期講習に無料ご招待！

〔※お申込み時期により受けられる講座数が異なります。7/20(金)まで...3講座、7/31(火)まで...2講座〕

猛追・爆走を目指す高3生はラストチャンス！

7月20日(金)までのお申込みで、1講座(90分×5回)の夏期講習に無料ご招待！

夏期特別招待講習

